

市民環境大学OB会 ニュースレター



第54号 2025年9月18日 発行

ホタルが飛び交った一月後、黒川清流公園に咲くヤマユリ(別所さん提供)

日野自動車跡地に建設中のデータセンターについて!!

現在日野自動車跡地にデータセンターと呼ばれる施設が建設中です。世界がインターネットというネットワークでつながり、世の中のあらゆる知識・情報がパソコンという道具であつたという間に調べられる時代になって久しいですが、最近さらにはデータの集合体が自らいろいろ考えるAIの時代になってきました。しかしそのためには膨大なデータを保存するデータセンターなるものの必要性が出てきました。この度OB会長の田中さんがデータセンターの説明会に出向かれ、情報収集されました。以下その内容を投稿いただきましたので紹介します。

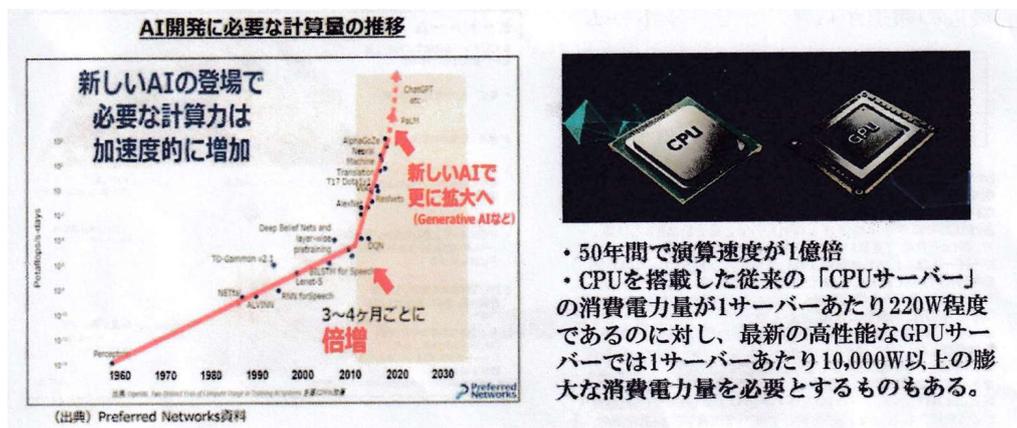
AIとデータセンターと住民・環境を考える

OB会長 田中 良一

ここ数年来、生成AIに代表されるAIの急速な発展は、人間社会のあらゆる分野においてその影響を与え続けております。文章作成、データ分析、などの業務効率化の中心になってきて、医療、製造業、金融、教育等の分野への導入が急速に進んできており、今後も文字、音声、映像、動画などのマルチモーダル化と同時に専門特化型AIの拡大がさらに進んでいきます。これらは新しい産業革命を惹起しているともいわれ、社会の変化を推進しているといえるのではないのでしょうか。

ただしこのようなAIの進化は、反面、フェイク情報、個人情報漏洩、人の仕事のAIによる置き換えなどのリスクも多々出ており、社会問題を引き起こしています。

また、このようなAIの進歩により、クラウドサービス、動画配信などの需要が急増しており、AIモデルは膨大な計算が必要なことから、それを処理するためには巨大なサーバー群が不可欠となってきております。その需要を満たすため世界各地で「メガデータセンター」が計画・建設されております。



AIの急速な進化とメガデータセンターの必要性

日野市においては、2022年に操業停止中の日野自動車工業跡地の再利用方法として、市民まちづくり会議、市長の助言を経て、2023年三井不動産への売却が決定しました。その後、「データセンター」を念頭において、2024年4月大規模開発事業土地利用構想届出、開発基本計画説明会、事業事前協議申請、2025年、市民まちづくり会議開催、環境審議会、調整会開催、2回の環境審議会が行われ、今後予定として調整会報告書、事業事前協議指導書が行われる。

日野データセンター計画

(1) 開発事業計画の概要

開発事業者 三井不動産株式会社
 設計者 鹿島建設株式会社
 開発事業の種類 業種第57業第1種第11号に該当する開発事業
 開発の概要 日野市日野台3丁目1番32,33,34、日野台4丁目31番1, 2, 5
 開発事業区域の面積 114,117.70m²
 用途地域種別 工業地域 第1種低層住居専用地域
 防火地域等：準防火地域



(2) 経緯

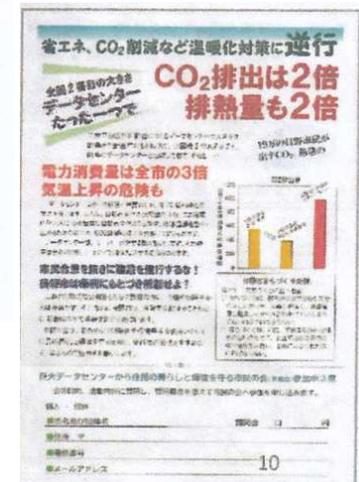
- ①日野自動車から大規模土地取引行為届出 2022年12月
- ②市民まちづくり会議(審申) 2023年3月9日
市長の助言(通知) 3月24日
- ③三井不動産への売却 9月28日 (日本経済新聞報道)
- ④大規模開発事業土地利用構想届出 2024年4月22日
説明会 5月28日 意見書65通 見解書 7月11日
- ⑤開発基本計画説明会 2024年10月2日 実施報告書との比較
- ⑥事業事前協議申請 2024年12月18日 意見書 見解書
- ⑦市民まちづくり会議開催 2025年1月22日 議事録(西側155,000m²)
- ⑧環境審議会 現地調査・審議 2月17日 議事録
- ⑨調整会開催 5月24日 9項目について調整
- ⑩環境審議会 6月30日 7月7日



日野自動車野村不動産へ譲渡(三井不動産の半額取得準備)用途不確定契約の可否(三井不動産or東電不動産)

大坪春彦 前日野市長：
 環境基本条例、そしてまちづくり条例に則って必要な権限を行使し、先頭に立って事業者に対する指導にあたっていきたく思っております

古賀壮志 日野市長：
 各種法令や条例のによって適切に指導していくが、市民が求めている、特に環境面のデータについては引き続き開示を求めながら、市民に寄り添った対応を取っていく「市民との合意形成の在り方、特に環境面はそれなりのノウハウを蓄積している、これまでの経験や実績を総動員して合意形成を図っていく」(4月28日MXテレビ電音氏インタビュー)



日野データセンターの概要と懸念材料

このような手続きと並行して、書名集め、日野市環境条例に基づき、環境審議会審議会委員による勉強会「データセンターのことは知っていますか」も開催され、啓蒙活動が行われております。しかし、三井不動産側の環境影響に関する懸案事項の情報開示の透明性が十分になされているとは言えず、特に周辺住民の直接・間接の不安が解消されているとは言いがたく、具体的には巨大建物による景観阻害、圧迫感、排熱処理、騒音、日照問題等々、また雇用も交流もない近隣関係が考えられる。

このような中でも、日野市、市民、事業者との今後の交渉に期待するものではあるが、柔軟性のある「三方よし」の提案が出てくることを願うものです。

参考資料 「水と緑のカワセミ会」の「データセンターってなあに」を使用

OB会メンバー 活動イベントニュース

- ・カワセミハウス環境パネル展参加 6月7日～21日
- ・ホテルのタベ参加 6月7日、11日、13日

OB会 例会情報 話題提供と話し合い情報

- ・ 6月例会：よい眠りについて考える3つの話 未包通信さん 話題提供
- ・ 7月例会：2025年度年金制度改革について考える3つの話 未包通信さん 話題提供
- ・ 8月例会：基礎年金底上げへの理解が得られない理由について考える3つの話 未包通信さん 話題提供

2025年 カワセミハウス環境パネル展に今年も参加！

4年目を迎える環境分科会イベント”ホタルのゆうべ”は開催日を3回に増やして今年も開催されました。実施にあたっては、計画含め全て黒川マイスターのリーダー（1～7期）主導で行われましたが、黒川マイスター修了生のうち7名の有志の方々の協力もありました。OB会の川村さんも有志の一人として参加されたため、今年のパネル展参加の報告を以下投稿頂きましたので紹介します。

2025年 環境分科会主催イベント「ホタルのゆうべ」を実施して

OB会 川村 桂子

本年は”ホタルのゆうべ”を3回開催となり、黒川マイスター修了生がスタッフとして手伝うことになった。

2025年パネル展では2枚のパネルを出展した。1枚目のパネルはホタルの一生、餌となるカワニナについて、両者の生存環境（ニュースレター51号掲載内容）を示し、2枚目のパネルでは **ホタルが生息できる環境を守ろう！**を掲げて、黒川清流公園で人為的介入なく自然な状態でホタルの生存維持できているのはこの地の環境の特殊性にあると考え、黒川清流公園の湧水の観測と東豊田緑地保全地域周辺の気温測定結果を示した。

1枚目のパネルはホタルのゆうべの観察前の説明にも使用した。この内容の縮小版とホタルを見るマナー印刷物を各家族に1枚ずつ配布し、応募参加者は両親と子供でだったり、大人単独であり、1回に18人ほどだった。観察場所の黒川清流公園に移動する前に、カワニナ飼育の水槽の前で、大小のカワニナを観察しながら、再度、ホタルの成長に応じて種々の大きさのカワニナが必須なことが強調され、子供にはくれぐれもカワニナの天敵にならぬよう注意した。

30分間の説明の後、黒川清流公園に移動、5ヶ所湧水流水出口で夫々の環境を観察しながら、広場近くまで歩く。その間できるだけ人工的照明を見ないような目の訓練した。5ヶ所目に到着する頃には日も暮れてきた。ここでは人工的照明や水面の流れによる揺らぎとホタルの光とを区別しながら、少々時間をかけて観察した。そして、往きとは逆順にホタルを探した。その間スタッフには、迷い子を置き去りにすることなく、足場の悪い場所には注意しながら誘導し、イベント参加者以外の観察者にも協力頂けるようマナー印刷物を配布した。

3回に増やして観察会が行われたことはホタルを実際に目にした参加者が増えて良かったと思います。事前に説明を受けてからの観察は判りやすくて良かった。暗くなってホタルの光の点滅が見られたり、飛んでいる姿もみられたり、”わあっ”という感動の声があちこちで聞かれて良かったです。また、参加者、参加者以外の人々もマナーの事を伝え、ホタルを楽しく見る事ができて良かったと思います。特に7日（土）には、抽選に漏れた人々の参加もあり、印刷物を沢山配布した。

地球温暖化の危機が叫ばれている今日、黒川清流公園の湧水は年中絶えることなく20℃以下に保たれていることや雑木林の緑多き環境が酷暑の軽減に寄与していると思われる。夏季に生い茂った木々の葉は成虫ホタルのシェルターとなる。人為的介入なくともホタルが毎年子孫を残し継代、生存維持できるのは日野市の貴重な環境的財産の1つではないか。来年もホタルの飛び姿が見られることを期待します。



2025年 環境パネル①
“ホタルの一生と餌のカワニナ”



2025年 環境パネル②
“ホタルが生息できる環境を守ろう”

今回のOB会コラムはカワセミハウス 村岡さんです。カワセミハウスでは本文にありますように毎年冬に環境セミナー“黒川清流公園の冬をさがそう”と題して公開講座が開設されています。村岡さんはそのイベントの中心となって積極的に活動されており、昨年秋の公開講座の様子を投稿頂きました。以下紹介します。

「黒川清流公園の冬をさがそう」

みんなの環境セミナー（日野市民環境大学公開講座）

2024年12月5日（木）10:00～12:00

カワセミハウス 村岡 明代

「市民環境大学公開講座」として毎年冬に開催している環境セミナーです。冬の黒川清流公園で、冬ならではの自然を観察することをテーマに毎年プログラムを考えています。今回は黒川清流公園が立ち入り規制中のため、カワセミハウス上の広場と水路沿いで観察できるものを中心に、冬の野鳥、落ち葉や木の実などを観察しました。

冬の野鳥は、今期はどこに行ってもツグミやシメといった、例年普通にみられる冬鳥が見られず、黒川清流公園でもやはり見られませんでした。しかしながら、カワセミハウス上の広場でリュウキュウサンショウクイを見つけたり、大池では冬鳥のマガモが見られ、さらにはカワセミを参加者全員が至近距離で見ることができました。一方で、林にいる野鳥は、たとえその場所においてもいつでも出会えるわけではないので、冬を懸命に生きる小鳥たちの姿を想像してもらうため、野鳥の気持ちになって餌になりそうなものを探してもらいました。落ち葉の中から小さなケヤキの種などを見つけ、冬の鳥たちがわずかな餌を探し厳しい冬を乗り切っていることを理解していただけたと思います。

野鳥以外では、落ち葉拾いゲーム（1分間でできるだけ多くの種類の落ち葉を拾ってもらう）も毎年恒例でやっています。今年は水路沿いでしたので公園の中よりは種数が少なかったですが、それでも皆さんが拾った落ち葉を集めると10種類近くになりました。また、清流広場では湧水の流れに手を入れて温度を体感してもらった後、温度計で実際に温度を測ってみました。小倉先生から湧水の水温は気温と比べて年間の変動幅が小さいことを実際の測定結果に基づいて説明していただき、気温が低い冬には外気温よりも湧水のほうが温度が高く温かく感じることを参加者に体感してもらいました。冬に湧水の水温が高いことは、水浴びが欠かせない野鳥にとってもありがたいことでしょう。

制約がある中での開催でしたが、参加者の皆さんには野鳥をはじめとした冬の自然を十分に感じていただくことができたと思います。



冬をさがそう1（落ち葉拾い）



冬をさがそう2（大池でカワセミを見る）